

第7回 高崎学検定

令和元年10月26日(土)実施



—— 問題と解説 ——

問1

次の文章のうち、【ア】、【イ】に適するものは、下の選択肢のそれぞれどれでしょうか。

多胡石は牛伏砂岩層の中で、大沢川流域で採石される石材名です。岩の色は黄褐色で細かい砂岩中に赤褐色の鉄分の層が網目状に広がる特徴を持っています。

大正時代に、多胡村から大量に切り出されたことから「多胡石」と呼ばれ、東京など首都圏のビル内外壁に使用されました。

この石材は【ア】の際、火を受けた部分は石がしまり木目状の赤みが鮮やかになったことから需要量が急増しました。

古くは、大沢川流域の古墳の石室や多胡碑石材、近年では、昭和～平成時代に地元建物壁面や石灯籠、建材として使用されました。

石材の良さが評価され、東京の【イ】車寄（玄関）脇や廊下腰板石材などにも利用されています。

- ア（１）関東大震災 （２）西埼玉地震
（３）浅間山麓地震 （４）新潟地震

〔正解 1〕

- イ（１）上野駅 （２）東京駅
（３）国会議事堂 （４）赤坂御所（旧東宮御所）

〔正解 4〕

●解説

多胡石は、高崎市吉井町南部にある牛伏山を中心に東西に延びる「牛伏砂岩層」を大沢川が貫流する八束山・朝日岳付近から採石される「石材」の呼び名です。この付近の岩層は、色が黄褐色で細かい砂岩中に赤褐色の鉄分の層が網目状に広がる特徴を持っています。板状に切り取ったものは、木肌に似た柔らかさとあたたかみがあり、鉄分の赤褐色が山水画のような紋様となるものが多く見られ、「ピクチャーストーン」とも呼ばれます。

明治時代後半から大正時代にかけて、旧多胡村から大量に切り出されたことから「多胡石」と呼ばれ、「上野鉄道」を利用して東京などに運ばれ、ビル内外壁や腰板材として使用されました。

この石材は、関東大震災の際火熱に耐えかえって石がしまり鉄分の木目状の赤みが鮮やかになり耐熱性にも優れ、石材界で話題となり需要量が急増しました。今日でも石材業界では群馬県を代表する石材としてよく紹介

されています。

古くは、大沢川流域の古墳石室や多胡碑石材、近年では昭和～平成時代には地元建物壁面や石灯籠、各地の建造物に使用されました。

この石材の良さが評価され、東京赤坂離宮（旧東宮御所）車寄（玄関）の脇や廊下腰板石材などにも利用されています。

問 2

次の文章のうち、【ア】～【ウ】に適するものは、下の選択肢のそれぞれどれでしょうか。

岩野谷丘陵（観音山丘陵）に広がる【ア】と命名された新生代第三紀層はかつて海底にありました。この【ア】を形成させた海が徐々に陸化していく中、植物が堆積して出来たものが【イ】です。【イ】は安価で手近なところで豊富に入手出来ることから、富岡製糸場や【ウ】の熱エネルギー源として使用されるなど、丘陵一帯で採掘が盛んに行われていました。

ア（１）八幡層 （２）板鼻層 （３）豊岡層 （４）牛伏層

〔正解 2〕

イ（１）コークス （２）硫黄 （３）亜炭 （４）ベントナイト

〔正解 3〕

ウ（１）豊岡養蠶場 （２）新町屑糸紡績所
（３）蒸気機関車 （４）勸工場

〔正解 2〕

●解説

高崎地域の西部には高さが標高200～250mの低丘陵が広がっていて、観音山（丘陵）と呼ばれています。観音山は碓氷川、高田川、鎗川、烏川に囲まれた富岡市、甘楽町、安中市、高崎市にまたがる岩野谷丘陵の東にあたりますが、総じて河川によって丘陵奥まで浸食が進んでいて、その結果、稜線が狭く、急な崖が多く見られるという特徴を持ちます。

岩野谷丘陵はおおよそ800万年前の新生代第三紀に堆積した板鼻層と呼ばれる地層からつくられています。板鼻層は浅い海から陸地にかけて堆積した地層で、貝の化石が多量に含まれています。

一方、灰黒色に炭化した木片の固まりが随所で見られます。多くはメタセコイヤという樹木の化石であると考えられますが、石炭化が十分に進んでいないため、石炭に対し亜炭と呼ばれています。この亜炭は江戸時代末頃から「燃える石」として知られていましたが、1872（明治5）年の富岡製糸場の設立に伴い、手近にあり、安価で大量に入手できるエネルギー源として、大規模な採掘が始まりました。亜炭はその後、新町屑糸紡績所にも供給されるなど、近代工業の発展に大きく貢献しました。

これらの鉱山は「高崎炭田」と称され、戦前を中心に全国有数の亜炭採掘地として栄えました。1950年代までは採掘されていましたが、石油がエネルギー源の主役に台頭するなか、閉山に追い込まれてしまいました。



トロッコで亜炭を運び出す坑夫たち

問3

次の文章のうち、【ア】、【イ】に適するものは、下の選択肢のそれぞれどれでしょうか。

剣崎浄水場の拡張工事にともなって発見された剣崎長瀬西遺跡では、5世紀の【ア】系の文物が多数発見され、当時の豪族の配下に渡来人がいたことを証明しました。積石塚という形式の墓、韓式系土器、金製垂飾付耳飾りなどが出土しましたが、なかでも【イ】の墓の存在は特筆され、渡来人がその生産に関わっていたことを推定させます。【イ】は後に軍事・運搬・農耕などに広く用いられ、国家的な財産となっていきます。

ア（1）中国 （2）朝鮮半島 （3）東南アジア （4）モンゴル
〔正解 2〕

イ（1）馬 （2）牛 （3）鹿 （4）水鳥

〔正解 1〕

●解説

古墳時代は、明治維新に次ぐ国際化の世紀でした。各地で古墳を築いていた倭（日本）の豪族たちは、大陸の最新文化や技術を求めて、中国や朝鮮半島諸国と外交関係を結びました。

当時、国内の先進地の一つであった群馬県地域の豪族も、多くの渡来人をこの地に迎え入れました。その証拠のひとつが高崎市の剣崎長瀬西遺跡です。問いに挙げたような5世紀の外来文物が多数出土したことから、この地に渡来人1世たちが確実に存在したことが分かります。

渡来人が進めた仕事の一つとして馬の生産が挙げられます。3世紀に書かれた中国の歴史書「魏志」倭人伝には、日本に「牛馬がない」と書かれています。たしかに弥生時代には馬や馬具の出土はなく、5世紀になって初めて馬関係文物が出土し始めます。このことから、馬生産は古墳時代になって推進されたことが明らかです。

馬の活用は、今日の自動車産業にも匹敵する動力革命といえます。馬の導入によって、軍事・運搬・農耕・情報伝達などが革新されたからです。高崎市の豪族は、渡来した馬生産の技術者を配下に置き、新時代を担う最先端産業である馬生産を推し進めたことが剣崎遺跡の調査成果から分かります。

問4

次の文章のうち、【ア】、【イ】に適するものは、下の選択肢のそれぞれどれでしょうか。

綿貫町に所在する綿貫観音山古墳は、【ア】後半につくられた大型の前方後円墳です。1967（昭和42）年に、未盗掘だった横穴式石室から大量の遺物が出土しました。東アジアとの交流を示す品も多く、なかには、当時朝鮮半島で栄えていた【イ】の武寧王の墓の出土品と同型の青銅鏡も含まれていました。

ア（1）4世紀 （2）5世紀 （3）6世紀 （4）7世紀

〔正解 3〕

イ（1）北齊 （2）新羅 （3）百濟 （4）伽耶

〔正解 3〕

●解説

未盗掘であった綿貫観音山古墳の石室からは、多彩な遺物が出土しました。なかでも特筆されるのは、大陸系の品々です。例えば銅製の水瓶は、中国北部にあった北斉という国の貴族の墓から出土したものと酷似しています。金色に輝く馬具や大刀などには朝鮮半島東南部に栄えた新羅の製品が多く含まれます。また問いに挙げた青銅鏡は、朝鮮半島西部にあった百済の王である武寧王の墓から出土した鏡と同型品でした。

「日本書紀」などの古代の歴史書には、当時は倭と新羅が敵対していたと書かれていますが、古墳の遺物をみると、実際には両国間に盛んな交流があったことがうかがえます。北斉の製品は、新羅との付き合いを介して手に入れたものでしょう。

8世紀に書かれた『日本書紀』には、古墳時代の群馬県地方の豪族（上毛野氏）が、朝鮮半島に将軍や外交官として何度も赴いた記事を載せています。その伝承は、綿貫観音山古墳の被葬者を含む、群馬県地域の前方後円墳被葬者の活動を伝えていると考えられます。

問5

次の文章のうち、【ア】、【イ】に適するものは、下の選択肢のそれぞれどれでしょうか。

山名町にある金井沢碑は、112字が刻まれた奈良時代の石碑で、国特別史跡に指定されると共にユネスコ「世界の記憶」に登録されました。碑文には、碑を建てた【ア】氏の男女6人、並びに彼・彼女らと【イ】を結んだ同族3人、合計9人の名が刻まれています。また、碑文のなかには、碑主の【ア】氏のほかに、他田君氏、物部君氏、磯部君氏らの名が刻まれており、古代豪族同士の婚姻関係の実態を見て取ることができます。

ア (1) 蘇我 (2) 三家 (3) 秦 (4) 上毛野

〔正解 2〕

イ (1) 誓約 (2) 同盟 (3) 知識 (4) 交遊

〔正解 3〕

●解説

金井沢碑の112文字は、古代の地方豪族の実態を知る上で極めて貴重な

史料です。そこには奈良時代頃の多くの歴史情報が秘められていますが、設問では碑に刻まれた氏族たちの姓名に注目しました。

碑の建立を主宰したのは三家氏で、6世紀にこの地にあったヤマト王権の直轄地「佐野屯倉」の管理を任されていた豪族の末裔です。かつて、ヤマト王権に選ばれた名族だったといえます。碑が建てられた頃には、すでに屯倉の制度は無くなっていましたが、「屯倉＝三家」の名を名乗って、かつての栄光を誇りにしていたことが分かります。

さらに、碑には物部君氏、他田君氏、磯部君氏らの名が刻まれます。近隣に勢力を張り、三家氏と婚姻や信仰を通じて交わりを結んだ豪族たちです。物部君氏も他田君氏も中央と関係を保っていた氏族であり、磯部君氏は製鉄産業を推進した技術系の氏族のようです。

碑に名前が刻まれた9人のうち、4人が女性であることも注目されます。彼女らは個人の名を記されており、古代女性が男性と平等な社会的地位をもっていたことを示します。日本女性史を考える上でも貴重な史料として注目されています。

問6

次の文章のうち、【ア】、【イ】に適するものは、下の選択肢のそれぞれどれでしょうか。

聖武天皇は741年に^{みことのり}詔を発し、全国に国分寺の建立を命じました。上野国では、現在の高崎市東国分町から前橋市元総社町にまたがる地域に造営され、いまでも遺跡が残されています。国分寺は二つの寺から成り、このうち上野国分僧寺は1926（大正15）年に国史跡となって保存されていますが、隣接する【ア】はいまだ史跡に指定されていません。このため、高崎市では2016（平成28）年度からその発掘調査に着手し、範囲の確定を目指しています。【ア】は国分僧寺と異なり【イ】を持たず、門・金堂・講堂・尼坊が一行に並ぶ構造となっていると考えられます。

- ア（1）光厳寺 （2）放光寺
（3）上野国分尼寺 （4）徳昌寺

- イ（1）五重塔 （2）七重塔 （3）多宝塔 （4）宝篋印塔
〔正解 3〕
ほうきょういんとう
〔正解 2〕

●解説

聖武天皇の詔で発願された国分寺は、その名の通り、全国約60国で建設が進められました。僧寺と尼寺の二つの寺がセットになったもので、国分二寺とも総称されます。

国分僧寺の正式名は、金光明四天王護国之寺〔金光明寺〕、国分尼寺の正式名は法華滅罪之寺〔法華寺〕で、僧寺には20名の男僧が、尼寺には10名の尼僧が配置されました。

僧寺と尼寺は基本的には近接して造られましたが、市街地化などによって破壊され、存在が分っていない国も多い状況です。そうしたなか、上野国では、高崎市（一部前橋市）に両方の寺の跡が市街化せずにそろって残されており、とても貴重な事例と言えます。

現在、高崎市が発掘調査を進める上野国分尼寺は礎石の残りもよく、大規模であり、既に公園化が図られた僧寺と並んで今後の保存活用が期待されます。

問7

次の文章のうち、【ア】、【イ】に適するものは、下の選択肢のそれぞれどれでしょうか。

本市の群馬地域には棟高町があります。この名称は上野国神名帳（中世前期に成立）に記載された【ア】神社に由来すると考えられています。この神社の祭神は海上交通の安全に関わる三女神で、世界遺産となった福岡県【イ】の祭祀とも深くかかわっています。上野国神名帳記載の神社の多くは古代に遡ります。この【ア】神社の存在は、高崎地域の古代人が広域的に活動・交流を行ったことを推定させるものです。

ア（1）諏訪 （2）金比羅 （3）大山祇 （4）胸形
〔正解 4〕

イ（1）志賀島 （2）沖ノ島 （3）対馬 （4）壱岐島
〔正解 2〕

●解説

前橋市の上野国総社神社には、『上野国神名帳』という古い神社の台帳が保存されています。神名帳には、郡毎に、神社の名前と神格が記載されて

おり、書かれたのは中世ですが、その実態は古代にさかのぼるものと考えられています。

群馬郡所在の多数の神社のなかに「胸形神社」が記載されています。胸形神社の祭神は3人の女神（胸形三女伸）で、その総本社は福岡県の宗像大社となります（胸形の字が古く、後に宗像と表記）。航海の安全に関わる神々で、世界遺産になった沖ノ島の祭神でもあります。

群馬郡の古代の胸形神社が本来どこにあったかは不詳ですが、明治時代の神官が地名や祭神を研究して現在の高崎市棟高町にあったと結論し、当時八幡神社だった社名を改称していまの胸形神社（棟高町1番地）が祀られています。

「胸形」の語は、古代の海人が魔よけとして胸に刻んだ入れ墨に由来するとされます。胸形三女神は海人の神として広く崇敬を受け、全国に6,000社が存在し、関東地方にもみられます。江戸時代までの日本では水運が極めて盛んで、胸形（宗像）神社は水上交通の安全信仰と共に広まったと考えられます。群馬郡の胸形神社は古代までさかのぼることから、群馬県地域の内陸の豪族が広く水上交通を駆使し、九州地方とのネットワークを有していたことを推測させます。

問8

次の文章のうち、【ア】、【イ】に適するものは、下の選択肢のそれぞれどれでしょうか。

近年発掘された多胡郡【ア】では、多胡碑の南方に瓦葺きの法倉（県内唯一の事例）があったことや、倉庫群の区画が明らかとなりました。

今回の発掘成果は、①多胡碑の碑文の内容と、②中央政府の正式な歴史書である【イ】の記述、③平安時代につくられた『上野国交替実録帳』の記述にも一致することから、多胡碑の真正性はますます高まったと考えられます。

ア（1）集落跡 （2）正倉跡 （3）城館跡 （4）窯跡
〔正解 2〕

イ（1）『続日本紀』 （2）『日本書紀』
（3）『史記』 （4）『倭名類聚抄』
〔正解 1〕

●解説

「多胡郡正倉跡」は、多胡碑に直接関わる遺跡としては、はじめてのものです。

正倉は当時の税である米を集めておく政府の倉のことで、今回の遺跡ではいくつかの建物跡が発見されました。そのうち、総瓦葺きの大型礎石立ち建物は、正倉の中でも格式が高い施設「法倉」と考えられています。瓦葺きの正倉は、県内初の事例で、全国でも大変珍しいものです。

また、いくつかの正倉があったとみられる地域の周辺には、区画された溝が発掘により検出していることから、今回、多胡郡の正倉院（溝で区画された倉庫群）が発見されたということになります（敷地は約210m四方）。

発掘された瓦は、総量1トン以上に及びますが、4点の軒丸瓦（建物の軒先を葺く丸瓦）の「複弁六弁蓮華文」の形式による年代の判定と、正倉跡の下から、それ以前の遺構が見つからなかったことから、正倉は8世紀前半に造営されたものと考えられます。正倉跡は、多胡碑の碑文や、『続日本紀』の記述にある711（和銅4）年多胡郡建郡と、年代や内容が一致することから、碑文を裏付ける遺跡として、今後の評価がまたれるところです。

問9

次の文章のうち、【ア】～【ウ】に適するものは、下の選択肢のそれぞれどれでしょうか。

吉井地区を中心とした地域で「羊太夫伝説」が語られています。それぞれの羊太夫伝説にほぼ共通する筋書きは以下のとおりです。

「羊太夫は、神通力を使う八束小脛やつかこはぎを従え、奈良の内裏に日参していました。ある日、小脛が昼寝している様子を見ると【ア】にトビの羽が生えているのを見つけ、いたずら心からこれを抜いてしまいます。すると、小脛は神通力を失い、羊太夫に従って奈良に日参することができず、隨身ずいしんを失った羊太夫も以前のように参内することはできません。やがて、羊太夫が参内を怠るのさんげんは【イ】を企てているからと讒言する者があり、討伐の軍勢を下されます。追い詰められた羊太夫は金色の蝶に化身して飛び去りますが、池村で自害しました。」

【ウ】の地元では、この碑を羊太夫の墓として「羊さま」と呼び、信仰の対象となっています。

ア（1）背中 （2）両耳 （3）両脇の下 （4）両足

〔正解 3〕

イ (1) 収賄 (2) 蓄財 (3) 内通 (4) 反逆

〔正解 4〕

ウ (1) 多賀城碑 (2) 多胡碑 (3) 金井沢碑 (4) 山上碑^{やまのうえ ひ}

〔正解 2〕

●解説

多胡碑の碑文中の「羊」なる者ともされる羊太夫については、吉井地区をはじめとする各地で「羊太夫伝説」が伝えられています。現存する記録の多くは、江戸時代以降の写本で、伝説がいつ生まれたのか分かっていませんが、相当古いものと考えられます。

また、地元では、多胡碑を羊太夫の墓として「ひつじさま」と呼び、古くから親しんできました。多胡碑と羊太夫をめぐるロマンあふれる物語です。

問10

次の文章のうち、【ア】、【イ】に適するものは、下の選択肢のそれぞれどれでしょうか。

金井沢碑にも登場する古代からの地名として【ア】が知られています。【ア】の舟橋歌碑には、「上毛野【ア】の舟橋とりはなし親はさくれどわはさかるがへ」と刻まれており、県内でも最も古い万葉歌碑とされています（市指定史跡）。

なお、碑を建てたのは、高崎城下あら町【イ】の僧「良翁」です。

ア (1) 伊香保 (2) 井出 (3) 碓氷 (4) 佐野

〔正解 4〕

イ (1) 延養寺 (2) 西光寺 (3) 定家神社 (4) 常世神社

〔正解 1〕

●解説

「上毛野佐野の舟橋とりはなし親はさくれどわはさかるがへ」は『万葉集』巻14のうち上野（かみつけの）国東歌（くにあずまうた）として収録されています。とりわけ、歌の「佐野の舟橋」は上毛野の佐野、つまり高崎市の佐野地域（上佐野・下佐野・佐野窪町）を詠んだものと考えられて

きました。

江戸時代の後半、高崎城下あら町延養寺24世住職であった良翁（1769～1837、隠居して新後閑町莊嚴寺16世住職となる）は、1827（文政10）年に「佐野舟橋の歌碑」を建立しました。短冊を意識したと思われる細長い碑の正面には、上部に「船木観音」という横書きの文字と、線刻の馬頭観音像が刻まれ、その下に万葉歌「上毛野佐野の…」が縦書きで深く彫られています。

なお、良翁は学識の高い僧として知られ、『伊呂波便蒙抄』『砂降記』などの著作を残しています。

現在、碑は西光寺（上佐野町）の西の路傍にあります。元は現在地より、烏川の段丘の下にあったといわれています。県内でも、もっとも古い万葉歌碑の一つと考えられます（市指定史跡）。

問 1 1

次の文章のうち、【ア】、【イ】に適するものは、下の選択肢のそれぞれどれでしょうか。

1789（寛政元）年、高崎藩士であった川野辺寛が著した【ア】に「上和田の^{まるいし}円石」「和田の^{たていし}立石」「下和田の^{かくいし}方石」と言われる「和田ノ三石」が紹介されています。

三石は次のように伝えられています。上和田の円石は一時善念寺（元紺屋町）の門前の石橋として利用されていたと言われますが、その一部は武居世平の歌碑に転用され、光徳寺（成田町）に残されています。弘法大師が腰掛けたとの伝承から「大師石」の別名がある和田の立石は、【イ】境内にあります。また、下和田の方石は、元は向雲寺（下横町）の近くにあったと言いますが、現在、若松町の佐藤病院の敷地内で見ることができます。

- ア（１）『高崎寿奈子』（２）『中山道高崎宿史』
（３）『高崎志』（４）『高崎風土記』

〔正解 3〕

- イ（１）高崎神社（２）日高神社
（３）護国神社（４）井野神社

〔正解 1〕

●解説

高崎城の前身となった和田城を築いた和田氏は、信業の時に後北条氏につき、豊臣秀吉による小田原征伐に際し、豊臣方の前田利家に降り、廃城となりました。このため、和田氏については不明な点が多く、資料もあまり残っていませんが、1789（寛政元）年、高崎藩士であった川野辺寛が著した『高崎志』の中に、「和田ノ三石」という記載があります。そこには、和田氏が特にこれを愛したという言い伝えから、高崎城築城に際して井伊氏もこれを使うことなく、元の場所にそのままの状態まるいしで据え置かれたとあります。三石とは「上和田のまるいし円石」「和田のたていし立石」「下和田のかぐいし方石」のことを言いますが、様々な伝承とともに今に伝えられています。

上和田の畑の中にあったと伝わる「上和田の円石」は善念寺（元紺屋町）の門前の石橋にとして利用された後、砂賀町の用水堀の橋に転用されたといわれ、その後不用となった石を買い受けた土屋老平が父世平の歌碑として、光徳寺境内に建立したとされます。善念寺の門前の石橋に利用された際に二つに割られたのでしょうか、その片割れが善念寺に残ります。

「和田の立石」は弘法大師が全国行脚の際、高崎に立ち寄り、腰かけたとの伝承から「大師石」とも、また、おこり（マラリヤ）に罹った人が祈ると治るということから「おこり石」とも言われています。現在、高崎神社（赤坂町）境内に置かれています。

「下和田の方石」には方石が化け物に見えたため、源頼朝の乗る馬が驚いて蹴ったとの言い伝えから、ばけいし「化石」「ばけいし馬蹴石」とも呼ばれます。一説に、ばあけ「ばあけ馬上」という地名から「ばあけいし馬上石」になり、転じて「バケ石」になったともされます。近くに、そんまほり「そんまほり損馬堀」と言う死んだ馬を捨てた堀があったという話が伝わるなど、方石は馬に関わる伝承に彩られています。佐藤病院（若松町）の敷地にあります。



円石



立石



方石

問 1 2

次の文章のうち、【ア】、【イ】に適するものは、下の選択肢のそれぞれどれでしょうか。

箕輪城にまつわる様々な伝説があります。特に、【ア】の話や木部姫の話はよく知られています。

【ア】は箕輪城主だった長野業政の夫人で、越後の上杉氏の出と伝えられています。業政の子業盛の代に箕輪城は武田氏に攻められ城も危なくなり、【ア】は業盛に越後に逃げるようにいわれ、供のものと箕輪城を脱出しました。武田勢の追っ手から逃れるうちに姫は1人になってしまいました。姫は三ノ倉の高野谷戸あたりで、離れてしまっていた供のものに「おいおい」と呼ばれたのを敵が来たと勘違いし、命を絶てしまったという話が伝わっています。

木部姫は箕輪城主長野業盛の姉で木部駿河守範虎に嫁ぎました。姫は箕輪城落城の折、20余人の供のものらと、城から逃れ榛名山の摺臼峠^{するす}をこえて、榛名湖のほとりにでました。敵に捕らえられて生き恥をさらすより、潔く自殺しようと、凍った湖に入水し命を絶ちました。榛名湖西岸の【イ】神社には、この姫を供養するための石碑があります。

ア (1) 亀姫 (2) 虎姫 (3) 藤鶴姫 (4) 松姫

〔正解 3〕

イ (1) 伊香保 (2) 榛名 (3) 榛名湖 (4) 御沼竈^{みぬまおかみ}

〔正解 4〕

●解説

箕輪城にまつわる様々な伝説があります。これらは伝説のため、伝えられる中でいくつかのバリエーションが見られます。よく知られる藤鶴姫や木部姫の話も、例えば、藤鶴姫は長野業政の夫人という説(『新編倉渕村誌第3巻民俗編』)や長野業盛の夫人という説があり、木部姫は長野業盛の姉とする説(『室田町誌』に収録され、『榛名町誌民俗編』に再録)以外にも、長野業政の妻とする説などもあります。

いずれにしても、藤鶴姫の話は、箕輪城主に関わる姫が三ノ倉で命を落とし、木部姫の話に関しては、戦国時代に武将の姫(妻)が榛名湖に入水したという伝承であることは共通しています。

こうした話は地元の人々に伝えられ、姫を供養するための石碑が建てられました。藤鶴姫に関しては、「箕輪城主夫人藤鶴姫の墓」(高崎市指定史

跡)であり、木部姫は御沼竈神社にそうした石碑があります。

問 13

次の文章のうち、【ア】、【イ】に適するものは、下の選択肢のそれぞれどれでしょうか。

高崎地方では、鎌倉時代になると石造供養塔や石像仏建造が武士や僧侶の間に急速に広まりはじめます。

倉賀野町【ア】境内には、明治年間に本寺に合併して廃寺となった末寺の長賀寺境内にあった、凝灰岩製大型地蔵菩薩像・聖観音菩薩像・胎蔵界大日如来像・尊名不明の像・阿弥陀如来像の5体が安置されています。高崎市指定重要文化財です。

また、小八木町妙典寺境内には、板状に剥がれやすい埼玉県荒川流域の緑泥片岩を使用した1257(康元2)年の県内最古の武蔵型の【イ】があります。高さ215cm、最大幅58cm、厚さ9cmで規模は市内最大です。高崎市指定史跡です。

ア (1) 大信寺 (2) 養報寺 (3) 清水寺 (4) 玄太寺

[正解 2]

イ (1) 石仏 (2) 墓石 (3) 板碑 (4) 宝塔

[正解 3]

●解説

中世になると、武士が新たな支配者層となり戦場で活躍する地方武士層にも、浄土思想が浸透し、先祖の追善供養を通して一族の現世安楽や来世の極楽往生を願う信仰が急速に広まりました。

これを受けて、石材が豊富な高崎地方では1250年代になると、武士や僧侶の間に石造供養塔や石造仏建立が急速に広まり始めます。

倉賀野町養報寺境内には、明治年間に本寺に合併して廃寺となった末寺の長賀寺にあった鎌倉時代の凝灰岩製大型地蔵菩薩像・聖観音菩薩像・胎蔵界大日如来像・尊名不明の像・阿弥陀如来像の5体が移設され安置されています。高崎市指定重要文化財です。

また小八木町妙典寺境内には、薬研彫の阿弥陀三尊を表す梵字(種子)を持つ、1257(康元2)年の銘文を持つ市内最大で最古の武蔵型板碑(高

さ215 c m、最大幅58 c m、厚さ9 c m) があります。

隣に並列する凝灰岩製五輪塔は、石材の風化が進み紀年銘が見られませんが同時代と推定されています。高崎市指定史跡です。

問 1 4

次の文章のうち、【ア】～【ウ】に適するものは、下の選択肢のそれぞれどれでしょうか。

烏川・碓氷川・鎭川のつくる低地と、それに繋がる丘陵は、源氏の新田氏系武士団が活躍した場所のひとつでした。

鎌倉時代に入る時、新田義重（源義重）が、源頼朝に対抗して、岩野谷丘陵の一角にあたる【ア】の館（城）に軍兵を集め、ここを拠点にして自立の構えを見せたといわれています。日本の歴史の転換点に一石を投じた場所が高崎にあるのです。

高崎地域における新田氏系統の源氏の勢力は強く、新田義重の子・義俊は榛名地域で【イ】氏を名乗り活躍しました。同じく義重の子・義範は南八幡地域で【ウ】氏を名乗りました。【ウ】氏は、後に西国へ移って大大名となり、応仁の乱では西軍の旗頭となりました。

ア (1) 岩崎 (2) 城山 (3) 寺尾 (4) 根小屋
〔正解 3〕

イ (1) 室田 (2) 里見 (3) 宮沢 (4) 若田
〔正解 2〕

ウ (1) 木部 (2) 岩井 (3) 阿久津 (4) 山名
〔正解 4〕

●解説

日本の各地に荘園がつくられ、政治が混乱すると、武士団が活躍するようになりました。この時代、高崎の地域は、新田氏系の源氏の勢力が強く、丘陵や平地には多くの館（城）が築かれました。

1180（治承4）年の秋、新田義重（源義重）は上野国寺尾の館（城）に拠り、軍兵を集めました。源頼朝に対抗して自立の構えを見せたのでした。

新田義重の寺尾の館（城）がどこにあったのか、明確ではありません。寺尾の永福寺のあたりではないかという説がありますが、証拠がありません。

ん。しかし、岩野谷丘陵（観音山丘陵）にあったことは確かなのです。日本の歴史的転換点に、このあたりが関わっていたということは、興味があることです。新田義重の幕府が高崎に置かれたかも知れません。

新田義重の子義俊は、里見に居を構え、里見氏を名乗って活躍しました。後年、新田義貞とともに鎌倉攻めに参加し、その後も行動を共にしました。同じく義重の子義範は、山名に居を構え山名氏を名乗りました。室町時代には西国に移り多くの領国を持つとともに、幕府の重職侍所さむらいどころの長官になりました。また、応仁の乱では、山名持豊（宗全）が西軍の総大将となって活躍しました。

なお新田義重の時代、木曾義仲が吉井地域で活躍しています。

問 15

次の文章のうち、【ア】～【ウ】に適するものは、下の選択肢のそれぞれどれでしょうか。

1582（天正10）年、小田原を本拠とする北条氏が織田信長重臣滝川一益に【ア】で勝利すると、上野には北条氏が進出しました。北条氏は沼田方面に進出するための拠点として、箕輪城に一族の【イ】を配置し、箕輪城の改修を行いました。一方、高崎市域では和田・【ウ】・笛木に、人や物資を運搬するための人足や馬を常備する宿泊施設である伝馬宿において、小田原との連絡のための交通網を整備しました。

- ア（１）井野川の合戦 （２）鐺川の戦い
（３）神流川の合戦 （４）烏川の戦い

〔正解 3〕

- イ（１）ほうじょううじやす北条氏康 （２）ほうじょううじまさ北条氏政
（３）ほうじょううじてる北条氏照 （４）ほうじょううじくに北条氏邦

〔正解 4〕

- ウ（１）倉賀野 （２）舟橋 （３）並榎 （４）豊岡

〔正解 1〕

●解説

1582（天正10）年、小田原を本拠とする北条氏が神流川の合戦で、滝川一益に勝利すると、上野には北条氏が進出しました。北条氏は鉢形城（埼

玉県寄居町)の城主であった一族の北条氏邦を箕輪城に配置し、沼田方面に進出するための拠点にしました。北条氏は1587(天正15)年に豊臣秀吉の来襲に備えるため、領国一円に及ぶ城の改修指示を出しており、箕輪城でもその時に指示が出されたことがわかる古文書史料があります。

北条氏は箕輪城を拠点に領国経営をすすめ、人足や馬を常備する宿泊施設である伝馬宿を和田・倉賀野・笛木におくなど交通網の整備をしました。なお、この時におかれた宿は、江戸時代の中山道の宿にもなっています。

問 16

次の文章のうち、【ア】～【エ】に適するものは、下の選択肢のそれぞれどれでしょうか。

1598(慶長3)年、井伊直政は箕輪城を廃し、和田城があった地に新たに高崎城を築城し城を移しました。【ア】・鍛冶町・鞘町などの町のほか、大信寺・大雲寺・【イ】・諏訪神社など多くの寺社が移転したことが、いくつかの史料に記され、大規模な移転だったことがうかがえます。

それまで和田と呼ばれた地は、中世の絵図に和田城東側に鎌倉街道や【ウ】が描かれているように、主要街道と宿が和田城と接するように立地する交通の要衝の地でした。こうした宿や街道のほかに、その城下には【エ】・玉田寺・善念寺など和田氏に関わる寺社がありました。高崎城築城ではそうした寺社や箕輪から移転してきた町・寺社を再編成し、城下町を整備しました。

ア (1) 上和田町 (2) 八島町 (3) 連雀町 (4) 若松町
〔正解 3〕

イ (1) 安国寺 (2) 愛宕神社
(3) 熊野神社 (4) 頼政神社
〔正解 1〕

ウ (1) 上ノ宿 (2) 裏宿 (3) 馬上宿 (4) 矢原宿
〔正解 3〕

エ (1) 向雲寺 (2) 興禅寺 (3) 光明寺 (4) 法輪寺
〔正解 2〕

●解説

中世の和田の地は、市指定重要文化財の『和田城並びに興禅寺境内古絵

図』には和田城東側に馬上宿や鎌倉街道が描かれ、『高崎志』などの史料に和田宿があったと記されています。こうした史料から、高崎城築城前から宿と主要街道が和田城と接するように立地していた交通の要衝の地であったことがうかがえます。

江戸時代に記された『高崎志』などには、箕輪城から高崎城へ多くの町や寺社が移転した状況が記されていますが、高崎城築城にあたっては、このように移転してきた町・寺社と、和田城があった時からの町・寺社を合わせて再編成し、城下町が整備されました。

問17

次の文章のうち、【ア】～【ウ】に適するものは、下の選択肢のそれぞれどれでしょうか。

高崎の染色業は、1598（慶長3）年、井伊直政が、箕輪から高崎に移った時、染物職人も移住してきたことから始まるといわれています。染物職人が住んだ場所が、現在の【ア】です。

高崎は世界かんがい施設遺産となった長野堰の水系を使った染色が盛んでした。街に張り巡らされた分水路にも染物屋が多くあり、高い櫓に染めたばかりの【イ】が干され風になびいていました。

高崎の染物は高級品も有名で、女性の下着や裏生地に使われたのですが【ウ】は華やかでとくに名高く、京都の間屋でも高く評価していました。

ア（1）元紺屋町 （2）染物町 （3）藍染町 （4）新紅屋町

〔正解 1〕

イ（1）帯 （2）タオル （3）手ぬぐい （4）風呂敷

〔正解 3〕

ウ（1）藍染め （2）しぼり染め （3）紺紺 （4）紅板締め^{べにいたじ}

〔正解 4〕

●解説

高崎の長野堰およびその分流には染物屋が多くありました。初めは井伊直政が、箕輪から高崎に移る時に、移住してきた染物屋がまとまって元紺屋町をつくりました。新紺屋町はその後でした。

時代の進展とともに、長野堰の本流を使った大きな染物屋ができ、友禅などの高級なものを染めていました。また、大量生産の先がけのように、手ぬぐいなどの反物が染められ、高い木の櫓に大量に翻るようになりました。

高崎近辺は絹織物の産地で、多くの白絹が生産されました。これは着物の裏生地に使われることが多かったのです。この白絹を染めて高級品に仕立て上げたのが「紅板締め」でした。紅板締めべにいたじの着物の襦袢じゅばん、裾除けすそよ（和服の下着の一種）は女性を着飾りました。高崎の紅板締めは京都の間屋でも高く評価していました。紅板締めは型板（模様を彫刻した版木）に白絹をはさんで染めます。はさまれた部分が染まらずに残り、きれいな赤地に梅や桜や文様が白く浮かび上がりました。華やかで鮮やかな染色法でした。残念ながら現在はやっていません。

問18

次の文章のうち、【ア】～【ウ】に適するものは、下の選択肢のそれぞれどれでしょうか。

1793（寛政5）年に下野国や常陸国と一緒に上野国にも幕府領を統治する代官が常駐する陣屋が置かれました。場所は中山道に隣接し民家が集まっている地域で日光例幣使道にも近い【ア】村に建設されました。代官として【イ】と近藤和四郎が就任し、近藤は5年ほどで離任しましたが【イ】は19年間その職を務めています。農村人口の減少対策、博奕ばくちの禁止など風俗の取締てあまりち、手余地や荒地の復興、新田開発など江戸時代後期の【ウ】に尽くしました。陣屋に隣接する観音寺にある墓は高崎市指定史跡になっています。

ア（1）阿久津 （2）岩鼻 （3）栗崎 （4）綿貫

〔正解 2〕

イ（1）江川太郎左衛門えがわたろう ざ えもん （2）大久保彦左衛門おおくぼひこ ざ えもん
（3）遠山左衛門尉とおやまさえもののじょう （4）吉川栄左衛門よしかわえい ざ えもん

〔正解 4〕

ウ（1）綱紀肅正 （2）支配強化
（3）農村復興 （4）治安維持

〔正解 3〕

●解説

代官所は江戸幕府が幕府直轄の領地に設置し代官を派遣して統治をした役所です。江戸時代中期になると幕府のお膝元である関東地方でも支配体制を揺るがすような諸問題が発生し始めたため、1793（寛政5）年に下野国や常陸国と共に上野国にも代官所を設け代官を常駐させることにしました。上野国の幕府領の一部を統治するため適地を模索したところ、中山道に隣接し、民家が集まり、日光例幣使道にも近い、岩鼻村に代官所として陣屋を新たに建設したのが岩鼻陣屋です。

初代岩鼻代官として吉川栄左衛門と近藤和四郎の両人が就任し、農村復興を中心とした政策を講じました。具体的な施策として、小児養育手当の支給を中心とした農村人口減少対策、博奕の禁止、無宿や博徒にあこがれる若者への教諭と本来的農民への復帰促進、都市化した農村風俗の是正、手余地や荒地の復興、新田開発の指導が挙げられます。

近藤和四郎は5年ほどで離任しましたが、吉川栄左衛門は19年間も在任して功績を残し、陣屋跡に隣接する観音寺にある墓は高崎市の史跡に指定されています。

問19

次の文章のうち、【ア】、【イ】に適するものは、下の選択肢のそれぞれどれでしょうか。

赤坂町の長松寺は1726（享保11）年に火災で諸堂宇を焼失し、1789（寛政元）年に本堂が再建されたと伝えられます。そのとき、向拝には天女、本堂には龍の【ア】を狩野探雲に描かせました。建物に描かれて今も残る絵画は高崎では数少ない文化財で、超大作で極彩色の【イ】と共に高崎市指定文化財になっています。作者の探雲は甘楽郡野上村（富岡市野上）の出身で、江戸城西の丸普請の際に絵画等の制作に従事しています。

ア（1）障壁絵 （2）天井絵 （3）引戸絵 （4）襖絵

〔正解 2〕

イ（1）杜若屏風 かきつばたびょうぶ （2）仁王像画 （3）涅槃画像 ねはん （4）能楽の絵馬

〔正解 3〕

●解説

赤坂町に建つ長松寺は、1726（享保11）年に火災で諸堂宇を焼失し、1789（寛政元）年に本堂が再建されたと伝えられます。再建時に、正面の向拝（仏堂の屋根の中央が前方に張り出した部分）には天女、内陣には龍の天井絵が制作掲げられました。作者はいずれも狩野探雲で、この他に長松寺には探雲が晩年の81歳に画いた極彩色の超大作涅槃画像もあります。

探雲は甘楽郡野上村（富岡市野上）出身で、幕府絵所で十五人扶持をうけ、江戸城西の丸普請の際には師を助け障壁画等の制作に従事しています。1800（寛政11）年に法眼となり晩年には帰郷し七日市藩の御用絵師を務めました。今日に残る天女と龍の天井絵は、建物に描かれた絵としては高崎では数少ないものでもあり、また、幕府絵師の地方での活躍や信仰と奉納絵を研究する基礎資料となる貴重な文化財で、3点とも高崎市の重要文化財に指定されています。

問20

次の文章のうち、【ア】～【ウ】に適するものは、下の選択肢のそれぞれどれでしょうか。

宿場には公用の旅人や荷物の往来に関し乗り継ぐ伝馬の事務を行う【ア】が置かれました。一般的に伝馬宿は一つの村あるいは町で形成され、高崎宿も江戸時代の初めは本町に伝馬宿が置かれました。やがて交通の要衝として発展すると輸送荷物や旅客が増加し、高崎藩主の【イ】が伝馬宿を田町と新町（あら町）に増設し、三ヶ所が交代制で担当することになります。その後、それらの町の経済的負担を緩和するため【ウ】が設定されると、高崎城下は単なる宿場だけでなく商都として発展して行きます。

ア（1）荷会所 （2）蔵前所 （3）取締場 （4）問屋場

〔正解 4〕

イ（1）あんどうしげなが安藤重長 （2）い い なおまさ井伊直政
（3）さかいいえつぐ酒井家次 （4）まなべあきふさ間部詮房

〔正解 1〕

ウ（1）三斎市 （2）六斎市 （3）九斎市 （4）十二斎市

〔正解 2〕

●解説

高崎城下を貫く中山道の伝馬宿は、1601（慶長6）年頃に創設され、本町に問屋場が置かれました。伝馬宿のおもな任務は公用の旅人や荷物を継ぎ立てて輸送することで、これに関するすべての事務を行った場所が問屋場です。伝馬宿では所定の人足と馬を常備し、公用は無賃のことが多く経済的負担が大きいものでした。

高崎は交通の要衝として、年と共に往来する人々や輸送荷物が増加したため、本町だけでは捌ききれなくなります。このため高崎藩主安藤重長は、1632（寛永9）年に田町・新町（あら町）にも問屋場を設け、1日から14日までを本町、15日から22日までを田町、23日から晦日までを新町に交代で勤めさせました。

重長の後を継いだ重博は、伝馬宿の経済負担を緩和させ、城下町の繁栄を願って本町・田町・新町の三町に市日を設定しました。高崎の六斎市です。本町は三・八の日、田町は五・十の日、新町は二・七の日と一か月に18日も開催され、高崎が城下町・宿場町だけではなく領域経済の中核機能を有した商都として発展する礎を築きました。

問 2 1

次の文章のうち、【ア】、【イ】に適するものは、下の選択肢のそれぞれどれでしょうか。

中山道の新町宿には神流川を往来する旅人のために【ア】がありました。寛保年間の洪水で流されたので、専福寺住職と町役人一同が【ア】を再建しようと発願し、旅人にも寄進を願い、建設費を集めました。8年の歳月をかけ1815（文化12）年に再建しました。1810（文化7）年に新町宿で川止めになって宿泊した【イ】は12文を寄進したことを日記に記し、「手枕や小言いうても来る螢」などの句を残しています。

- ア（1）杉並木（2）一里塚
（3）常夜灯（石燈籠）（4）石畳

〔正解 3〕

- イ（1）こばやし いっさ 小林一茶（2）おおた なんぼ 大田南畝（しよくさんじん 蜀山人）
（3）じっぺん しゃいっく 十返舎一九（4）いの うただたか 伊能忠敬

〔正解 1〕

●解説

中山道新町宿の常夜灯は、浮世絵師栄泉の「木曾街道六十九次」の本庄宿・神流川渡場にも描かれています。1815（文化12年）に再建された常夜灯は、明治時代に高崎市大八木町の諏訪神社に移り、新町地域の有志が1979（昭和54）年に再建した複製が国道17号沿いに設置されています。

新町宿を始め、中山道の高崎市内各宿については、江戸時代の著名人の旅行記にも記されており、貝原益軒『木曾路の記』、太田蜀山人『壬戌紀行』、十返舎一九『^{がねのわらじ}金草鞋』『膝栗毛下冊』、伊能忠敬『測量日記』などが知られています。

問 2 2

次の文章のうち、【ア】、【イ】に適するものは、下の選択肢のそれぞれどれでしょうか。

江戸時代後期に入ると社寺の参拝見物が一般化し、榛名山町に建つ榛名神社も多く参拝者が訪れるようになり、その中でも「榛名講」と呼ばれた集団が、関東全域から信濃、越後、甲斐にまで広く結成されました。「榛名講」の中から選ばれ代参する者が宿泊し食事をする施設の【ア】が榛名神社の参道には設けられ、最盛期には百軒もあったといわれます。現在榛名神社の参道には国の登録有形文化財の【ア】が3軒残り、名物の【イ】などと共に観光に訪れる人の目的になっています。

ア（１）門屋 （２）社家 （３）大社 （４）寺内

〔正解 2〕

イ（１）雷おこし （２）久寿餅
（３）七味唐辛子 （４）門前そば

〔正解 4〕

●解説

榛名神社は古くから神仏習合の神社で、修験者が利用する宿坊で構成される門前町が形成されていました。江戸時代後期になると社寺の参拝や見物が一般化し、毎年参拝に訪れる人が多くなり、村々では講という信仰集団が結成されるようになります。榛名神社を訪れる講は「榛名講」と呼ば

れ、関東全域及び信濃・越後・甲斐国にまで結成されました。村々の講中からは毎年数名の者が代表として選ばれ参詣するようになります。

これらの参拝者が宿泊や食事休憩に利用する社家が門前町に建ち並び、最盛期には百軒もあったといわれます。現在も残る門倉家住宅(善徳坊)、一宮家住宅(般若坊)、鐸木家住宅(本坊)の3家は、地域の歴史的景観に寄与しているとして国の登録有形文化財に指定されています。また、参道には数多くの茶店・土産物屋が並んで参拝者や観光客を楽しませ、特に、榛名産の地粉と湧水で打った門前そばが訪れる人々の目的になっています。

問23

次の文章のうち、【ア】～【ウ】に適するものは、下の選択肢のそれぞれどれでしょうか。

松平(大河内)輝高が藩主時代の高崎藩は、武家を中心とした【ア】の世界で主流を担っていました。【ア】の道の宗匠冷泉家は藤原定家に連なる名門で、冷泉為村は同家中興の祖と称されます。その為村門下の筆頭的存在で高崎藩士の【イ】の名声は、天下に鳴り響き「関東の公家」と称されるほどで、後年には高崎藩の年寄を辞職し将軍家の師範となりました。妻の【ウ】も【ア】の世界に優れていただけでなく、『源氏物語』の書写をヒントに描いた『木草物語』は文学的質の高い作品と高く評されています。

ア (1) 絵画 (2) 書道 (3) 平曲 (4) 和歌

〔正解 4〕

イ (1) 飯塚久敏 (2) 生方雨什
(3) 宮部義正 (4) 横浜正倫

〔正解 3〕

ウ (1) 鑑子 (2) 寿女 (3) 千代 (4) 万

〔正解 4〕

●解説

江戸時代九代将軍・十代将軍の二代にわたり、京都所司代や老中といった幕府の重職を歴任した高崎藩主松平(大河内)輝高と藩士の宮部義正は、歌学を冷泉為村に学び、和歌の世界において幕臣を中心に形成された堂上

派歌壇の中核的存在でありました。

冷泉為村は堂上公家の一つ冷泉家の十五代目です。冷泉家は藤原俊成・定家・為家に連なる藤原北家御子左家で、勅撰集撰集の伝統を継承する歌道宗匠として歌壇に君臨しました。為村は同家中興の祖と称され、多くの弟子は公卿、幕臣、大名とその家臣に及び、その為村から門下第一と評された宮部義正の歌道における名声は「関東の公家」と称されるほどでした。義正は高崎藩家老を務める家に生まれ、当人も藩の重役である年寄に就いていましたが、のちに辞職し幕府の和学所に仕え將軍家の和歌の師範となりました。

義正の妻女の万も冷泉家に入門し、自らも夫婦でも歌集を出すほどの歌人ですが、為村から『源氏物語』葵の巻の浄書を依頼されたことからヒントを得て、春夏秋冬から成る『木草物語』を著しました。この作品は文学の香り高い力作であり、女流作家としても高く評されています。

問24

次の文章のうち、【ア】、【イ】に適するものは、下の選択肢のそれぞれどれでしょうか。

幕末における攘夷運動は上州でも胎動しました。1863（文久3）年の春、上州佐波郡島村に近い武州血洗島村（埼玉県深谷市）出身の【ア】は、後に【イ】初代場長になった義兄の尾高惇忠らと攘夷蜂起を試みました。その計画の矛先は高崎城で、ここを占拠して武器・弾薬を奪い横浜の開港場を焼打し、幕府に対して攘夷の決断を迫るものです。しかし、これを知った惇忠の弟長七郎に暴挙であると説得され、蜂起論は退けられ未遂となりました。

- | | |
|-------------------------------------|-----------------------------------|
| ア（1） <small>おおくらきはちろう</small> 大倉喜八郎 | （2） <small>くめたみのすけ</small> 久米民之助 |
| （3） <small>しぶさわえいいち</small> 渋沢栄一 | （4） <small>やすだぜんじろう</small> 安田善次郎 |

〔正解 3〕

- | | |
|----------|------------|
| イ（1）品川硝子 | （2）新町屑糸紡績所 |
| （3）富岡製糸場 | （4）中小坂鉄山 |

〔正解 3〕

●解説

1863（文久3）年の春、利根川を挟んで上州佐位郡（現佐波郡）島村の対岸に位置する武州血洗島村（埼玉県深谷市）の渋沢栄一は、義兄に当る尾高惇忠や従兄弟の喜作と共に攘夷運動の組織を結成して蜂起を試みました。その計画は高崎城を占拠して武器・弾薬を奪い、横浜の開港場を焼き打ちし、幕府に対して攘夷の決断を迫るものです。しかし、渋沢からの手紙で事の次第を知った惇忠の弟長七郎は急遽京都から戻り、高崎城攻撃は暴挙であると説得し、渋沢らの蜂起論は退けられ未遂となりました。

若い時代に攘夷運動に走った渋沢ですが、その後、江戸遊学中から交際のあった一橋家家臣平岡円四郎の推挙により一橋慶喜に仕えます。十五代将軍となった慶喜の弟徳川昭武が名代としてパリ万博に派遣されると、渋沢はその随員となり視察をしています。このことが契機となり、明治の実業界で数多くの企業を起こし、「日本資本主義の父」と称される大実業家になります。渋沢の推薦により尾高惇忠は官営富岡製糸場の初代場長に就任しています。

問 25

次の文章のうち、【ア】、【イ】に適するものは、下の選択肢のそれぞれどれでしょうか。

1869（明治2）年の高崎藩領は、春から大風が吹き、8月には台風が襲来し、3年連続の米の減産は決定的となりました。特に古くから高崎藩領である【ア】の村々は、他の村々と比較して、税制等に不公平な面がありました。そこで夏には、その打開に向けて、藩との交渉を求める動きが始まりました。

秋になると、個々に活動していた【ア】の村々は、組織をつくって全藩的に連携するようになります。今からちょうど150年前の1869（明治2）年10月17日、【イ】に集結した農民たちは、藩との直接交渉のため高崎城下へ押し出しました。ついに五万石騒動が始まったのです。

ア（1）新領 （2）古領 （3）幕府領 （4）旗本領

〔正解 2〕

イ（1）すきのお進雄神社 （2）ごれい五霊神社
 （3）すないご烏子稻荷神社 （4）ことひら琴平神社

〔正解 1〕

●解説

江戸中期から後期にかけて、高崎藩は、「城付五万石」と呼ばれた高崎城を中心とする上野国群馬郡・碓氷郡・緑野郡の領地と、越後国一ノ木戸陣屋・下総国銚子陣屋・武蔵国野火止陣屋が管理する飛び地で構成されていました。

中でも城付五万石領の村々は、古くから藩領に属していた「古領」と、後に同藩領に加えられた「新領」に分けられ、さらに岩鼻陣屋が管理する幕府領・旗本領が点在していました。古領と新領、飛び地、岩鼻陣屋が管理するいわゆる「天領」は、それぞれ税制が異なり、古領は税率が高く設定されていたことから、米が不作になると、同領村々の農民の不満が高まりました。

幕末維新期に米が不作になるとその価格が上昇し、付加税や畑の税を米で支払うことになっていた古領の村々を中心に、事態を打開しようという動きが高まります。当初、農民たちは各村単独で藩と交渉しますが、要求が通らなかったため、村々をつなぐ組織を作り、「総代（惣代）」と呼ばれる代表者を選んで嘆願書を作成しました。1869（明治2）年10月17日、柴崎村の天王森（進雄神社）に集結した農民たちは、藩と団体で交渉するため、高崎城下へ押し出しました。これが、明治維新直後の高崎を揺るがした五万石騒動のはじまりです。

問 2 6

次の文章のうち、【ア】、【イ】に適するものは、下の選択肢のそれぞれどれでしょうか。

高崎城には5棟の櫓と16棟の門が建てられていました。明治になり、県庁の所在地が前橋・高崎、あるいは熊谷とめまぐるしく変わる中で、徐々にこうした建物は取り壊されました。市重要文化財【ア】には、1872（明治5）年に城内の門・櫓など6ヶ所が払い下げられ、1874（明治7）年には城内三ノ丸、士族屋敷を取り壊し、さらに同年再び城内の櫓・門などが払い下げのため取り壊されたことが記されています。

こうした一連の取り壊しの中で、本丸を囲う土塁上の4隅の櫓と西側土塁上にあった天守相当の三階櫓も払い下げられました。このうち本丸【イ】隅にあった乾櫓は下小鳥町の農家の納屋として使われ、1977

(昭和52)年に本来の場所から東に300mの現在の地に移築復元、群馬県では唯一の城郭建築物として県指定重要文化財になっています。

- ア (1) 『柴田日記』 (2) 『高崎日記』
(3) 『連雀町日記』 (4) 『本町日記』

〔正解 1〕

- イ (1) 北東 (2) 北西 (3) 南東 (4) 南西

〔正解 2〕

●解説

明治に入ると高崎城内には陸軍が入り、高崎城の建物は取り壊されていきました。このことは田町の商人が書き留めた幕末から明治にかけての日記で、2010（平成22）年に市重要文化財に指定された『柴田日記』に、明治初頭に高崎城の建物が徐々に払い下げられていったことが記されていることからわかります。『柴田日記』には、建物のほかに堀が埋め立てられたことも記され、高崎城がこの時期に姿を失っていったことがうかがえます。

こうした一連の払い下げでは、城内にあった16棟の門のほかに本丸を囲う土塁上の四隅の櫓と西側土塁上にあった天守相当の三階櫓も払い下げられました。このうち本丸北西隅にあった乾櫓は下小鳥町の農家の納屋として使われ、1977（昭和52）年に本来の場所から東に300mの現在の地に、移築復元されました。群馬県では唯一の城郭建築物として県指定重要文化財になっています。

問 27

次の文章のうち、【ア】、【イ】に適するものは、下の選択肢のそれぞれどれでしょうか。

柴崎町出身の書家である大澤雅休は、代用教員時代から短歌・俳句・詩・絵画に親しみ、40代から「現代書家の父」といわれる比田井天来の門人となりました。その後、版画家の【ア】とともに革新的な芸術運動を展開して、抽象的な書家の先駆者となり、その遺墨が、各地に石碑として残っているほか、その作品が【イ】に多数収蔵されています。

- ア (1) 池田満寿夫 (2) オノサト・トシノブ

(3) 山本 鼎^{やまもと かなえ}

(4) 棟方志功^{むなかた し こう}

〔正解 4〕

イ (1) 高崎市美術館

(2) 群馬県立近代美術館

(3) 群馬県立館林美術館

(4) 多胡碑記念館

〔正解 2〕

●解説

大澤雅休(1890～1953)は、群馬・栃木・東京・北海道において、定年まで教員を務めました。戦前、倉賀野小・滝川小(高崎市)、細井小・桃井小(前橋市)教員時代は、特に短歌に親しみましたが、やがて書の世界に没入するようになりました。彼は40代に書の大家・比田井天来に師事し、その才能を開花させて、書の結社「平原社」を結成します。

戦後、雅休は、版画家の棟方志功と深く親交を重ね、ともに革新的な芸術運動の旗手として活動しました。二人の合作に「寒山拾得」「平原観音」「二人同志」「大蓮華雲」「南無瑠璃光如来」「樹下石上」などがあります。

その後、雅休は抽象的な書の先駆者となり、その作品は、群馬県立近代美術館などに多数収蔵されています。代表作は「黒岳黒谿」「大法無法」「山嶽重疊」「不識底字」「鎧戸」「深山大沢」「洌黙雷轟」、かな作品「ささの葉は」、陶皿「九鼎大呂」があげられるほか、各地に石碑が残されています。なお、雅休のお墓と顕彰碑は、高崎市柴崎町にあります。

また、弟の竹胎(1902～55)も書家として活躍しました。

問28

次の文章のうち、【ア】～【ウ】に適するものは、下の選択肢のそれぞれどれでしょうか。

1873(明治6)年に東京に日本最初の銀行が開業し、その翌々年に【ア】の高崎支店が高崎市九蔵町に進出しました。これが群馬県下最初の銀行です。横浜開港以来の生糸貿易商として成功を収めていた【イ】が同町の出身であり同行の副頭取でした。

高崎は生糸の集積地と共に繊維関係の商人が高崎商業界の中心をなし、1895(明治28)年に【ウ】が設立されました。群馬県で最初であり、全国でも42番目と早く、全国有数の商都であることを象徴する組織の誕生でした。

- ア (1) 勸業銀行 (2) 第二国立銀行
(3) 積善銀行 (4) 安田銀行

〔正解 2〕

- イ (1) いのうえやすさぶろう 井上保三郎 (2) こぐれ ぶ だゆう 木暮武太夫
(3) しもむらぜんたろう 下村善太郎 (4) もぎ そう べい 茂木惣兵衛

〔正解 4〕

- ウ (1) 高崎卸商組合
(2) 高崎全商業会
(3) 高崎商業会議所 (後の高崎商工会議所)
(4) 高崎法人会

〔正解 3〕

●解説

1872 (明治5) に太政官布告された国立銀行条例に基づき、翌年第一国立銀行が設立され、1875 (明治8) 年には原善三郎や茂木惣兵衛ら横浜の豪商が中心となって第二国立銀行が設立されます。同行は横須賀と高崎に支店を開業し、この高崎支店が群馬県下最初の銀行です。支店の所在地は質商大黒屋の子に生まれた同行副頭取茂木惣兵衛の出身地高崎市九蔵町でした。

茂木は絹商人の養子となり、その世界で幅広く活躍していた経歴を買われ、横浜開港以来生糸貿易商で成功していた野沢屋庄三郎の後を継ぎます。特権商人による生糸貿易参入など難局もありましたが、1876 (明治9) 年には生糸売込商人として生糸取扱量が第一位となり存命中ほぼ一位を続けるほどになります。

当時の日本における最大の輸出商品は生糸で、第二国立銀行の群馬県への進出は生糸に関わる産業界への資金供与が主な目的でした。高崎は生糸の集積地と共に繊維関連の商業が盛んでしたが、商工業全般の発展を視野においた団体をつくる気運が高まり、高崎商工会を母体として1895 (明治28) 年に高崎商業会議所が設立されました。今日の高崎商工会議所の前身です。群馬県では初、関東では東京、横浜、八王子、宇都宮、栃木に次いで6番目、全国では42番目という早い設立で、事務所は田町の高崎絹市場の二階に置かれました。

問 29

次の文章のうち、【ア】、【イ】に適するものは、下の選択肢のそれぞれどれでしょうか。

吉井町黒熊の浅間神社の奥にある【ア】碑には、「吾が恋はまさかも悲し草枕 多胡の【ア】の奥も悲しも」の歌などが刻まれています（市指定文化財）。この歌は古代の歌謡集である【イ】のうち、上野国東歌でも秀歌と評されています。

碑は、明治時代に【ア】村の名称が生まれたことを記念して建てられたもので、地元の小学校・中学校に、その名称が残されています。

ア（１）多胡 （２）山名 （３）小野 （４）入野

〔正解 ４〕

イ（１）『万葉集』 （２）『古今和歌集』
（３）『古事記』 （４）『文選』

〔正解 １〕

●解説

「吾が恋はまさかも悲し草枕 多胡の入野の奥も悲しも」は、『万葉集』
卷14のうち上野国東歌として収録され、秀歌として広く知られています。
この歌の「多胡の入野」は多胡郡（高崎市吉井町）の地を詠んだものとされてきました。

1889(明治22)年に多胡郡東部の9カ村（黒熊・深沢・小串・石神・中島・多比良・馬庭・小暮・岩井）が合併した際、万葉歌の「多胡の入野」から新しい村の名称を採って「入野村」としました。これを記念して5年後の1894(明治27)年に浅間神社（吉井町黒熊）の境内の奥の高台に建てられたのが「入野碑」です（市指定史跡）。菱形の碑には『万葉集』「吾が恋は～」のほか、中世の歌集『夫木集』『新続古今集』より「多胡の入野」にちなむ和歌のあわせて3首が刻まれています。

碑文を書いた金井之恭（1833～1907）は新田郡の画家・金井鳥洲の子で、幕末には維新の志士として行動したことから、岩鼻陣屋に投獄されていたとされています。明治以降には官僚となり、書にも秀で、多くの石碑にその墨蹟を残しています。

※「入野小学校」は、1940(昭和15)年に入野尋常小学校として、「入野中学校」は1947(昭和22)年にそれぞれ誕生し、現在も「入野」の名を受け

継いでいます。

問30

次の文章のうち、【ア】、【イ】に適するものは、下の選択肢のそれぞれどれでしょうか。

高崎と吉井の間は山塊によって隔てられていたため、往来は容易なことではなく、「わが村(旧多胡村)、高崎まで四里あり、高崎に行く者稀にして」「女、子ども高崎を知らずして死す者多かりし」と言われるほどでした。

しかし、1890(明治23)年に【ア】が開削され、道路が整備されたことによって、高崎と吉井が最短距離で結ばれるようになりました。同時に、【イ】には多胡橋が架けられ、多くの物資の流通や人々の往来を可能にしました。

- ア (1) 中山峠 (2) ヤセオネ峠
(3) 天神峠 (4) 松之沢峠

〔正解 1〕

- イ (1) 烏川 (2) 井野川 (3) 滝川 (4) 鐺川

〔正解 4〕

●解説

旧多胡村(吉井町南部)の初代村長向井周弥は日記に次のように綴っています。「わが村、高崎まで四里あり、高崎に行く者稀にして・・・」「女、子ども高崎を知らずして死す者多かりし」。この文から分かるように、明治時代になっても高崎と吉井の往来は特に子どもや女性にとって困難であったことがうかがえます。高崎に行くためにはサンコー72カントリークラブの敷地を通り、石原町に抜ける西回りコースか、山名町まで大きく迂回し、根小屋町を経由して、佐野の渡しで烏川を渡る東回りコースがありました。西回りコースは、距離は比較的短いものの険しい坂道を登らなければならず、東回りコースは、平坦で歩き易いが距離が長いという問題点がありました。

しかし、これも1890(明治23)年、中山峠を開削し、新たな道路を整備したことにより解消されました。短く、勾配のなだらかな道路は高崎と吉井をつなぐ大動脈となり、人々の往来や物資の移送を容易にしました。同時に、鐺川には多胡橋が架けられ、鐺川を渡ることも楽になりました。現在、中山峠を通過する道路は高崎から神流町を経て、埼玉県秩父市を結ぶ県道として重要な役割を果たしています。

問31

次の文章のうち、【ア】、【イ】に適するものは、下の選択肢のそれぞれどれでしょうか。

明治時代後半になると、東京・横浜や地元の企業家は、三井家所有の富岡製糸場や養蚕業者が使用する繭・生糸製品、鐺川流域で産出する鉄鉱石・石灰・砥石・材木・薪炭輸送の需要を見込み、1893（明治26）年12月高崎～下仁田間に「鉄道線路敷設願」を逓信省鉄道局に提出し、これが受理され1897（明治30）年開通しました。

社名は【ア】で、本社は高崎町、敷設費は40万円でした。大口株主には三井物産会社をはじめ、東京・横浜の資産家と地元高崎町の初代町長、初代高崎市長に就任した【イ】、吉井、富岡、下仁田の資産家、これに賛同した流域の小口株主も事業を後押ししました。

- ア（１）明治鉄道 （２）上野鉄道
 （３）大正鉄道 （４）上州鉄道

〔正解 2〕

- イ（１）さくらい や さぶろう 櫻井彌三郎 （２）まゆずみ やく に 黛 治邦
 （３）ねぎ し そうざぶろう 根岸宗三郎 （４）やじ まはちろう 矢島八郎

〔正解 4〕

●解説

明治政府は維新後、各地で殖産興業を図り近代国家を目指しました。高崎は、1884（明治17）年には東京と鉄道で結ばれ、更に信越線、両毛線が延伸され、鉄道の要衝となりました。

明治時代後半には、明治政府から三井家に払い下げられた「富岡製糸場」の繭集荷・生糸製品、鐺川流域の養蚕農家の製品搬送、沿線で産出した鉄鉱石・石灰・砥石・材木・薪炭を、高崎を経由し沿線や首都圏に運ぶ鉄道輸送計画が盛り上がりました。これを受けて1893（明治26）年12月には「上野鉄道線路敷設願」が逓信省鉄道局に提出されました。1895（明治28）年に許可があり、1897（明治30）年に竣工して営業を開始しました。

社名は「上野鉄道株式会社」で、本社は高崎町、敷設費は40万円でした。大口株主には三井物産会社をはじめ、東京・横浜の資産家と地元高崎町の初代町長、初代高崎市長に就任した 矢島八郎、吉井根岸宗三郎、富岡黛治邦、下仁田櫻井彌三郎などの資産家の他に、流域の多数の小口株主も事業

を後押ししました。

現在の上信電鉄株式会社の前身になります。

問 3 2

次の文章のうち、【ア】、【イ】に適するものは、下の選択肢のそれぞれどれでしょうか。

養蚕は農家にとって大きな収入源であったことから蚕は大切に育てられ、豊蚕を願う信仰や儀礼が広く行われていました。

蚕や繭がネズミに食べられてしまうことから、養蚕農家は神社からヘビのお札を受けたり、豊岡や八幡地区でダルマとともに製造されていた【ア】を買い求め、ネズミ除けのまじないとしました。

また、蚕の神様が盛んに信仰されました。鳥子稻荷神社（上小埜町）内の【イ】は近在の人々によって信仰され、頂いてきたお札を蚕室に貼るなどして、養蚕の無事や豊蚕を祈願しました。

- ア（１）獅子頭 （２）張り子の虎
（３）起き上がり小法師 （４）招き猫

〔正解 ４〕

- イ（１）ばとうかんのん馬頭観音 （２）さるたひこのかみ猿田彦神
（３）おおくにぬしのみこと大国主命 （４）きぬがさのおおかみ絹笠大神

〔正解 ４〕

●解説

養蚕はかつての農家にとって重要な収入源でした。蚕を「オカイコサマ」と呼び、多くの労力を費やし、大切に育てられました。しかし、桑が霜害によって食べられなくなったり、蚕が病気になったりして死んでしまうなど、安定して繭がとれるというものではありませんでした。このため、養蚕農家は進んだ養蚕技術を取り入れる一方で、神に豊蚕をお願いしました。

小正月に米の粉で繭玉を作って神に捧げたり、蚕神（蚕影様、絹笠大神など）へ豊蚕祈願を行い、蚕神の名が書かれたお札を蚕室などに貼ったり、山名八幡宮や少林山や遠く沼田の迦葉山に代参講を組んでお参りに行くなどしました。

また、ネズミが繭を食べてしまうことから、天敵の蛇や猫が描かれたお

札を貼ったり、招き猫を置いたりしてネズミ除けのまじないをしました。
柳原馬頭観音（南大類町）の正月18日の縁日では草競馬が行われ、馬を競
わせて養蚕の出来不出来を占ったりしました。

これらの習俗は殆ど見ることも出来なくなりましたが、今でも神社の
境内などには農家が祈りを捧げた蚕神の石造物にその名残を見ることが出
来ます。

問 3 3

次の文章のうち、【ア】、【イ】に適するものは、下の選択肢のそれぞれ
どれでしょうか。

火葬場はかつて高崎の町なかにはありましたが、その後、江木町の【 ア 】
の地に移転しました。ここには現在、五万石騒動義人堂が建てられている
ほか、脇には水戸天狗党の浪士猿田忠夫の墓があります。

火葬場は、1934（昭和9）年には現在地の寺尾町の【 イ 】裏へ移転
し、現在に至っています。

ア（１）田村堂 （２）達磨堂 （３）太子堂 （４）無縁堂
〔正解 ４〕

イ（１）永福寺 （２）清水寺 （３）安楽寺 （４）玄太寺
〔正解 １〕

●解説

かつて、火葬は高崎の町なかにあった無縁堂という場所で行われていま
した。しかし、人家が近いという理由から、安藤氏が藩主であった頃に別
の場所（江木町）に移転したといえます。川野辺寛が著した『高崎志』に
は無縁堂の移転先は「四面反畝ニシテ森ノ中ニアリ」と書かれていて、周
辺の環境に配慮した場所であったことが分かります。「堂五間、四間、西向、
萱葺」で、「高崎ノ茶毘所也」とあります。

その後、火葬場は高崎市に引き継がれますが、ここにも人家が密集してき
たことから、1932（昭和7）年、市会に移転新築が諮られました。折から、
永福寺（寺尾町）より境内山上に火葬場を設けてほしい、敷地を無償で市に
貸与するという申し出があり、現在地への移転が決まりました。1934（昭
和9）年、総工費2万9000円、3台の重油式火葬炉を備えた新たな火葬場が

完成しました。

無縁堂のあった場所には五万石騒動義人堂という、騒動で犠牲となった人々を慰霊、顕彰するモニュメントが建てられています。また、その一角には水戸天狗党の猿田忠夫が従者6人とともに眠る墓があります。猿田は天狗党の軍資金調達のため、先遣隊として上州に乗り込んできましたが、高崎藩に捕らえられ、処刑されました。

問 3 4

次の文章のうち、【ア】～【エ】に適するものは、下の選択肢のそれぞれどれでしょうか。

明治になると、高崎藩主大河内氏の祈願所であった【ア】の跡地には公園が設けられましたが、1900（明治33）年の高崎の市制施行に際し、高崎公園と呼ばれるようになりました。その後、【イ】にあわせ、近代初の造園研究者であり、作庭家であった小沢圭次郎の設計により、泉水広場、噴水、二流の滝などが配置された近代的な公園に生まれ変わりました。このほか、園内には戦没者を祀るための英霊殿もありました。

また、公園から観音山丘陵の眺望はその美しさから【ウ】と称され、見る人の目を楽しませています。2015（平成27）年には公園と烏川の水辺を繋ぐ【エ】が開通しました。

ア（1）大染寺 （2）竜広寺 （3）玉田寺 （4）興禅寺

〔正解 1〕

イ（1）聖石橋の架橋 （2）観音道路の開通
（3）歩兵十五連隊の設置 （4）上水道の敷設

〔正解 4〕

ウ（1）高崎八景 （2）並榎八景
（3）観音山八景 （4）烏川八景

〔正解 1〕

エ（1）羽衣橋 （2）城南大橋 （3）桜観音橋 （4）和田橋

〔正解 3〕

●解説

高崎公園は明治維新により廃寺となった大染寺（高崎藩藩主大河内家の

祈願所)の跡地に1876(明治9)年に設けられました。高崎公園(1900(明治33)年の市制施行に伴い、高崎公園と呼ばれるようになる)は烏川の左岸の小高い段丘上にあることから見晴らしがよく、公園からの景観は高崎八景とも大染寺八景(①烏川渡舟、②浅間暮雪、③清水晩鐘、④半田夕照、⑤石原晴嵐、⑥佐野落雁、⑦古塁夜雨、⑧少林秋月)とも称され、桜の花見と併せ、多くの市民でにぎわいました。

1909(明治42)年には英霊殿が置かれ、明治維新以来の戦死者や歩兵十五連隊所属の戦病死者を祀る招魂祭が執り行われるなど、慰霊の場所としての顔を持つようになりました。続く1910(明治43)年には上水道の敷設に伴い、近代初の造園研究者であり、作庭家であった小沢圭次郎の手により、泉水広場、噴水、二流の滝と池からなる近代的な公園へと整備されますが、これが現在の高崎公園の原型となっています。1955(昭和30)年、近隣公園として、市内で最も早く都市計画決定を受けました。

また、園内には近世以降の高崎を見つめてきた樹齢400年を超えるハクモクレン(県指定天然記念物)の大木があります。



昭和初期の高崎公園

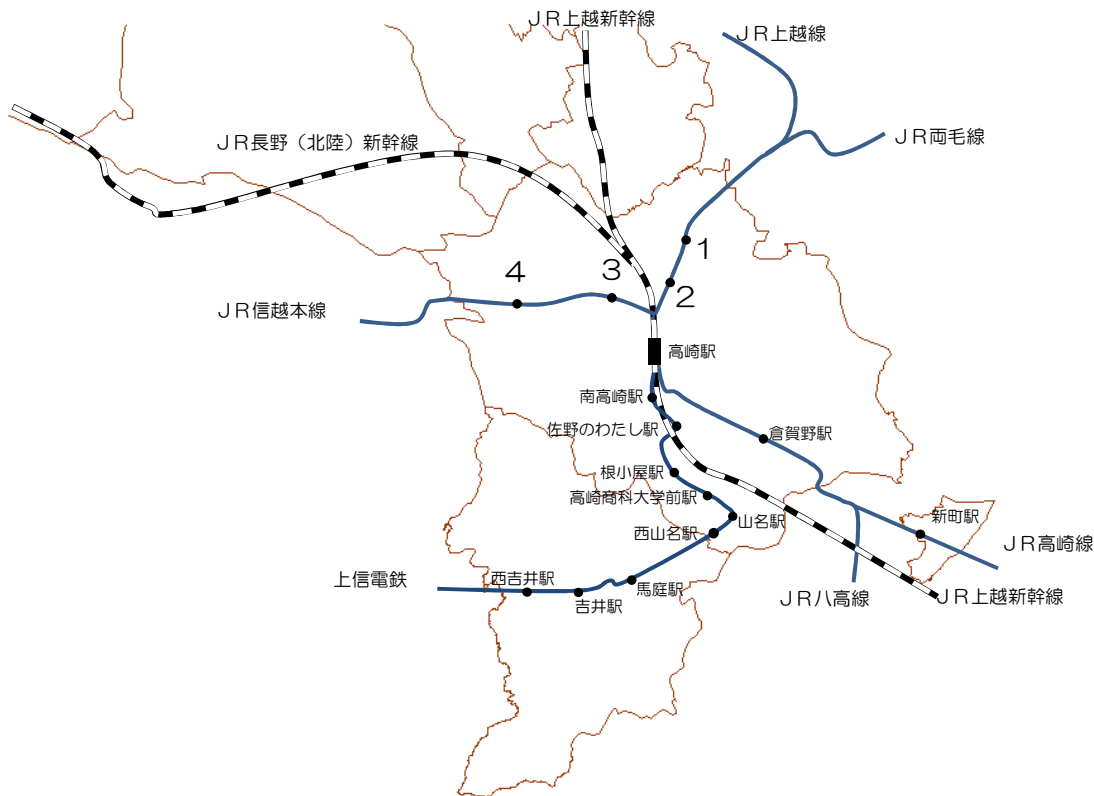
問35

次の文章のうち、【ア】～【エ】に適するものは、下の選択肢のそれぞれどれでしょうか。

古くから高崎市内には卸売業者が多くあり、商都としての発展を支えていました。しかし、昭和30年代後半、くるま社会が到来すると、その立地のほとんどが市内中心地にあったことから、慢性的な【ア】が大きな障害となっていました。

そこで、1963(昭和38)年1月、問屋団地づくりの母体となる高崎卸商社街協同組合(組合員数185社)が創立され、同年11月には、中小企業庁の【イ】の指定団地となり総額27億円をかけて整備が進められました。当初、中小企業庁も50社程度と見ていたのを大きく上回り、最終的に組合員数は【ウ】社となり、1967(昭和42)年までにほとんどが進出し、

最近では、2004（平成16）年10月、下の図の【 エ 】の地に「J R 高崎問屋町駅」が開業し、大手企業や大学の移転進出が進んでいます。



- 〔正解 2〕

- 〔正解 1〕

- 〔正解 2〕

- 〔正解 2〕

1967（昭和42）年、11万坪という広大な土地に、全国初の卸商業団地として誕生したのが問屋町です。

2004（平成16）年10月には、請願駅「J R 高崎問屋町駅」が開業しました。開業当時の乗客数は、1日平均1,000人程度でしたが、新駅開業を機に、大手企業や大学の移転進出が進み、通勤通学の人々などの利用で年を追うごとに利用者が増え、2018（平成30）年度の乗客数は、1日平均3,831人となっています。

問36

次の文章のうち、【ア】～【ウ】に適するものは、下の選択肢のそれぞれどれでしょうか。

箕郷地域出身の画家山口薫は、湯浅一郎、福沢一郎とともに、群馬県を代表する画家です。

山口薫は金敷^{かなしき}平の恵まれた田園生活の中で育ち、農作業を手伝い、子牛や子馬が生まれたといっでは喜びました。こうした生活が、あの有名な絵【ア】を生み、故郷の田園風景が絵の構図に反映し、彼の作品には【イ】の造形が多く見られるのが特徴となっています。

彼は東京芸術大学教授として学生の指導に当たり、優れた描写力ある画家として活躍し、作品は飛ぶように売れ、時には体調を崩すほどでした。彼はキャンバス・デッサン帳・ノートに、情趣ある文も書いたことから、【ウ】の画家ともいわれています。

- ア（1）子牛誕生 （2）太郎誕生
（3）花子誕生 （4）梅子誕生

〔正解 3〕

- イ（1）ひし形 （2）正三角形 （3）長方形 （4）三日月形

〔正解 1〕

- ウ（1）心情 （2）旅情 （3）詩興 （4）詩情

〔正解 4〕

●解説

山口薫は、1907（明治40）年、群馬県群馬郡箕輪村金敷平（現高崎市箕郷町金敷平）に山口彦太郎・佐登の第11子として生まれました。末子でした。旧制の高崎中学へ入学、在学中から油絵を描き始め、何冊かの絵日記も描きました。薫の心には生まれ育った金敷平の田園風景が焼きついてい

て、彼の絵に大きな影響を与えました。とくにひし形の造形を多く使いました。

1925（大正14）年、東京美術学校（現東京藝術大学）西洋画科に入学しました。描写力が優れ成績も優秀なので、2年生への進級時には特待生となり、授業料を免除されました。展覧会でも才能を発揮し、帝国美術院展覧会や二科展に入選しました。

1930（昭和5）年、東京美術学校を卒業して、フランスに渡り、近代絵画の研究をしました。帰国後、新時代洋画展、自由美術家協会、モダンアート協会を同志とともに結成し、世界の視点から1930～60年代を見つめるという活動をしました。

代表作に「花子誕生」「矢羽根飛ぶ」「おぼろ月に輪舞する子供達」「朝昼晩」（この絵は高崎シティギャラリーに飾られています）があります。彼は詩的センスが高く、キャンバスやスケッチブック、ノートに詩を書き、心の叫びを表しました。そのため「詩情の画家」ともいわれています。

1951（昭和26）年、武蔵野美術学校講師になり、1964（昭和39）年には母校の東京藝術大学教授になりました。

山口薫の芸術的評価は高く、次々に制作を依頼され、作品は飛ぶように売れました。しかし、温厚で断ることが苦手な薫は、厳しい圧迫感から病気になる、1968（昭43）年、61歳で亡くなりました。

問37

次の文章のうち、【ア】、【イ】に適するものは、下の選択肢のそれぞれどれでしょうか。

ドイツで著名な建築家であったブルーノ・タウトは、ナチスの台頭を避けるように1933(昭和8)年、日本にやってきました。

およそ3年半日本に滞在し、そのうち2年3か月を高崎の少林山達磨寺境内にある洗心亭で暮らしました。

建築家ではありましたが、高崎では【ア】の設計や工芸運動に携わりました。

現在高崎オーパにある「高崎じまん」のコーナーと高崎駅の「群馬いろは」では、タウトが着目して始まった竹皮編みの「パン皿」などの品々が販売されています。

また、今春話題になった【イ】の小説『ノースライト』では、少

林山やタウトの設計した椅子が登場します。

- ア (1) 家具 (2) 自転車 (3) 工作機械 (4) 木工工具
〔正解 1〕

- イ (1) あさだじろう 浅田次郎 (2) きりのなつお 桐野夏生
(3) どうばしゅんいち 堂場瞬一 (4) よこやまひでお 横山秀夫

〔正解 4〕

●解説

ベルリンの6つの集合住宅（ジードルング）が「ベルリンのモダニズム集合住宅群」としてユネスコの世界文化遺産に登録されたのが2008（平成20）年。そのうち4つがタウトの作品です。建築家ではありませんが、家具の設計や工芸運動に携わり、タウトの設計の椅子は少林山達磨寺に残されています。

横山秀夫の小説は、建築家が、注文主の希望で設計し、完成した家を訪ねると、家族の姿はなく一脚のタウトの椅子だけがある、という建築家が主人公の小説です。

問38

次の文章のうち、【ア】、【イ】に適するものは、下の選択肢のそれぞれどれでしょうか。

高崎市が【ア】で開催した「ものづくり海外フェア」をきっかけに、【ア】映画界の巨匠と言われるエリック・クー監督の作品【イ】の日本ロケが高崎市内で行われました。

この作品は、【ア】の女優ジネット・アウさん、斎藤工さん、松田聖子さんが出演し、ベルリン国際映画祭2018に招待されました。日本では2019（平成31）年3月初旬から全国公開され、同年春の第33回高崎映画祭でも特別上映されました。

またジネット・アウさんは、高崎アンバサダー（高崎PR大使）として、高崎市の広報宣伝活動に尽力しています。

- ア (1) ミャンマー (2) インド
(3) シンガポール (4) 台湾

〔正解 3〕

- イ (1) HIGH&LOW THE MOVIE (2) 半落ち
(3) 包帯クラブ (4) 家族のレシピ

〔正解 4〕

●解説

高崎市の産業を海外にPRする「ものづくり海外フェア」が2016（平成28）年にシンガポールで開催されたことをきっかけに、シンガポール映画界を牽引する映画監督エリック・クー氏らに高崎映画祭と高崎フィルムコミッションの活動が認められ、日本とシンガポールの外交関係樹立50周年を記念する映画『家族のレシピ』が製作されました。

ジネット・アウさん、斎藤工さん、松田聖子さんらが出演し、シンガポールと日本を舞台に、家族愛が描かれ、シンガポール料理の「バクテー」と日本のラーメンを合わせたオリジナル料理「ラーメンテー」が考案されました。この作品の日本ロケは全て高崎市内で行われ、ベルリン国際映画祭2018に招待されるなど国際的にも高い評価を受けました。日本では2019（平成31）年春に公開され、高崎映画祭にも招へいされました。

問39

次の文章のうち、【ア】、【イ】に適するものは、下の選択肢のそれぞれどれでしょうか。

今年9月に開場した高崎芸術劇場は、約2000席の多目的の「大劇場」、約500席の中規模の劇場などにも利用できる「スタジオシアター」、約415席の音響が優れた【ア】と市民の創造活動を支援する様々な「創造スペース」で構成されています。

スタジオシアターは舞台の高さと【イ】を変えることができ、客席は可動で平土間にもできる空間です。これはロックコンサートなどのスタンディングイベントにも対応するためです。

- ア (1) 小ホール (2) 中ホール
(3) 音楽ホール (4) 小劇場

〔正解 3〕

- イ (1) 奥行 (2) 幅 (3) 天井の高さ (4) 角度

〔正解 1〕

●解説

2013（平成25）年に「人々の都・高崎に新しいパブリックセンターを」と、集客施設基本計画がスタートしました。この背景には、JR新幹線、高崎駅東口から関越自動車道への整備などがあります。このパブリックセンターの一つの機能として高崎芸術劇場が開館しました。

「大劇場」は、プロセニウム舞台仕様として使う場合、間口は最大28m、奥行きは21m、舞台の高さは十分確保されており、大型のイベントの装置が組み込み可能となっています。この舞台のサイズであれば、大掛かりな舞台装置を使用するような全国ツアーを計画しているアーティストの要望にも応えることができます。また、音響反射板を使用する舞台仕様にするともまったく別の音楽ホールとなります。

「スタジオシアター」は、舞台の奥行きが、3間、5間、7間と変えられ、1階席は、椅子席を収納して客席をフラットにもできます。

「音楽ホール」は、音楽専用のホールで、音響に優れているだけでなく、ホール内の残響時間の調節が可能です。音楽だけでなく講演などにも使えるよう配慮されています。

「創造スペース」は、リハーサル室としての利用はもちろんですが、市民が低料金で音楽の練習などに使える部屋も用意されています。

問40

次の文章のうち、【 】に適するものは、下の選択肢のどれでしょうか。

浜川運動公園の拡張事業として、高崎市初のスタンド付き観客席を備えたソフトボール専用球場が2019（令和元）年6月にオープンしました。

このソフトボール場の愛称は、一般公募で【 】が選ばれました。

ソフトボール競技は2020（令和2）年東京オリンピックの公式種目であり、メダル獲得が期待される競技です。このソフトボール場では、国際大会や日本代表の強化合宿も行われています。

- | | |
|---------------|------------------|
| (1) 宇津木スタジアム | (2) オリンピックスタジアム |
| (3) タカサキスタジアム | (4) スポーツパークスタジアム |

〔正解 1〕

●解説

高崎市は日本女子ソフトボール1部リーグのトップチーム「ビックカメラ高崎BEEQUEEN」、「太陽誘電ソルフィーユ」が所在し、両チームは多くの日本代表選手を輩出しています。

浜川運動公園の拡張事業として、高崎市初のスタンド付き観客席を備えたソフトボール専用球場が2019（令和元）年6月にオープンしました。このソフトボール場の愛称には、一般公募によって、高崎市の企業チームで活躍し、元日本代表監督の宇津木妙子さん、現在の日本代表監督・宇津木麗華さんにちなんで、宇津木スタジアムが選ばれました。

ソフトボール競技は2020年東京オリンピックの公式種目であり、メダル獲得が期待される競技です。このソフトボール場では、国際大会や日本代表の強化合宿も行われています。

問 4 1

次の文章のうち、【 】に適するものは、下の選択肢のどれでしょうか。

高崎市は、2020（令和2）年の東京オリンピック・パラリンピックの事前合宿誘致に取り組み、【 】、ウズベキスタンのホストタウンに登録されています。これまで【 】の男子バレーボール、柔道、ウズベキスタンの新体操が高崎で強化合宿を行っています。

- (1) ポーランド (2) ジャマイカ
(3) フランス (4) オーストラリア

〔正解 1〕

●解説

高崎市は、2020年東京オリンピック・パラリンピックの開催に向け、東欧のポーランドから2016（平成28）年6月に、中央アジアのウズベキスタンから2018（平成30）年4月に、事前キャンプ等を行うホストタウンとして登録されました。

東京オリンピックに先立ち、高崎市と両国はスポーツや芸術文化を通じた交流を進めており、2019（令和元）年10月にはポーランドのバレーボー

問42

ルと柔道の競技連盟が事前キャンプの協定を高崎市と正式に調印しました。

次の文章のうち、【ア】～【エ】に適するものは、下の選択肢のそれぞれどれでしょうか。

「くらぶち英語村」は、小中学生を対象とした英語で生活する【ア】です。廃校となった【イ】を活用し、倉渚地域の産物である木材を活用した木造の寄宿舍も造られています。

ここでは、外国人のスタッフとともに、さまざまな体験や生活を、英語を使って行います。こうした生活を通して実践的な英語力や【ウ】を身につけ、生きる力や思いやりの心を高めようとしているのです。

また、倉渚地区では、空気がきれいで、美しい星空が見られるという利点を生かしています。子どもたちが美しい星空を見て、宇宙への関心を高め、さらにそれを地域の活性化につなげようとして【エ】を2019（平成31）年3月に開設しました。

- ア（１）山村留学施設 （２）海外留学施設
（３）小栗留学施設 （４）山川留学施設

〔正解 1〕

- イ（１）倉渚中学校 （２）水沼小学校
（３）川浦小学校 （４）川浦中学校

〔正解 3〕

- ウ（１）おもてなし感覚 （２）地球感覚
（３）外交感覚 （４）国際感覚

〔正解 4〕

- エ（１）くらぶちこどもプラネタリウム （２）くらぶちこども天文台
（３）くらぶちこども電波望遠鏡 （４）くらぶちこども宇宙基地

〔正解 2〕

●解説

くらぶち英語村は、小中学生を対象とし英語で生活する山村留学施設です。高崎市が運営しています。廃校となった川浦小学校に、木造の寄宿舍を建設して、施設を充実させました。そこで、外国人スタッフとともに様々な生活や体験活動を英語で行うのです。この国内英語留学施設での生活の中で、国際感覚を身につけるとともに、「自立心」、「思いやりの心」、「生きる力」を育むとともに、実践的な英語力を高めます。

くらぶち英語村では3つの留学コースがあります。1年を通して外国人スタッフと共同生活や体験活動を行う通年コース、土・日に行う1泊2日の週末留学、週末コース、夏休み中や冬休み中の短期留学、短期コースです。

倉渕地区は、空がきれいです。かつては「低緯度オーロラ」が観測されたことがありました。天の川は良く見えます。この利点を生かし、地域の活性化をはかろうとして、2019（平成31）年3月16日、天体望遠鏡を備え、くらぶち子ども天文台が設置されました。

高崎学検定委員会